

MS&AD Report

中間ご報告

2012.4.1～2012.9.30

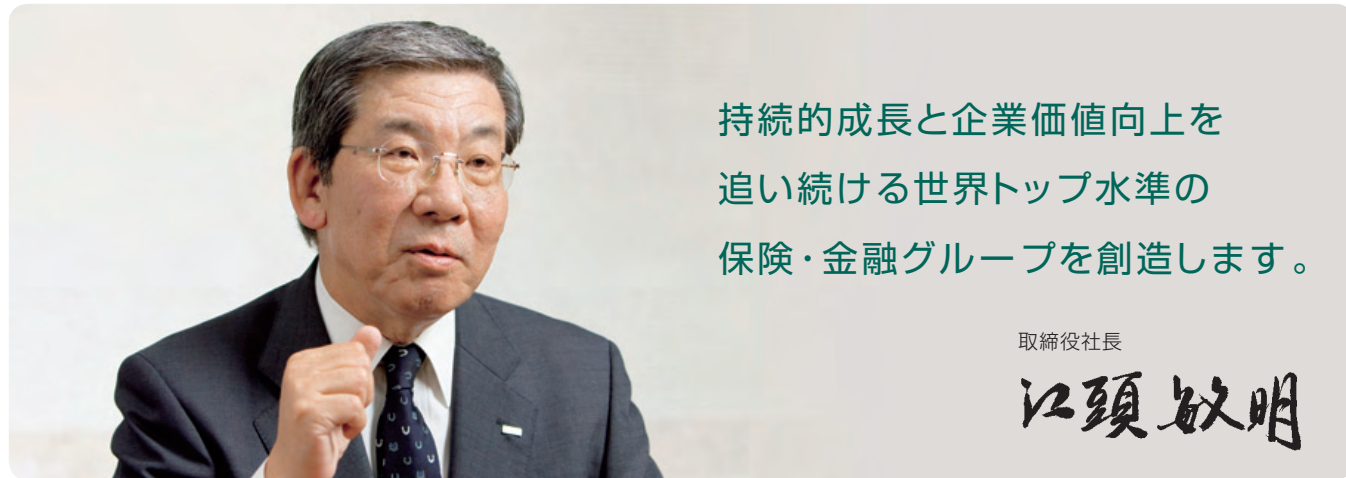
証券コード:8725

立ちどまらない保険。

MS&AD MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社

目次

- 01 株主の皆さまへ
- 03 ビジネスピックアップ
- 04 CSRトピック／
東日本大震災に対する取り組み
- 05 業績ダイジェスト(2012年度中間期)
- 09 会社概要／役員／株式の状況
- 10 株主メモ



取締役社長
江頭 敏明

株主の皆さまには、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに2012年度中間期(2012年4月1日から2012年9月30日まで)のご報告をお届けします。

今年度に入りまして、爆弾低気圧や台風、豪雨など、各地で自然災害が相次いでおります。被災された皆さまには、心よりお見舞いを申し上げます。

さて、わが国経済は、復興需要等を背景とした緩やかな持ち直しが見込まれる中、世界景気の減速等を背景として回復の動きが足踏みし、先行きについては弱めの動きも見込まれるなど、依然として厳しい状況にあります。また、円高が継続し株式相場も低迷が続くなど、経営を取り巻く環境は険しさが続いております。

こうした環境下、当中間期の連結業績は、正味収入保険料が1兆3,404億円と前年同期比352億円の大幅な増収を果たしました。しかしながら、中間純利益に関しましては、有価証券評価損等を原因として、94億円の損失となりました。

持続的成長と企業価値向上を 追いつける世界トップ水準の 保険・金融グループを創造します。

当社グループの事業のうち国内損保事業は、三井住友海上、あいおいニッセイ同和損保とも主力の自動車保険などを中心に2011年8月から15か月連続で保険料収入が増収しており、また自動車保険の損害率も着実に改善しております。成長分野である海外事業や国内生保事業も安定的な成長を遂げており、更なる収益への貢献が期待されます。

一方、中間期の業績や今後も厳しさが続く想定される運用環境を勘案し、11月19日に2013年3月期(通期)の連結業績予想の修正を発表いたしました。

なお、2012年度中間配当金につきましては前年度と同額の1株あたり27円とさせていただきます。

当社グループでは、引き続きグループの総合力を結集して持続的成長と収益性の向上を追求し、中期経営計画の完遂にまい進してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2012年12月

インド大手生命保険会社との資本提携について

2012年4月、MS&ADインシュアランス グループの三井住友海上は、インドの有力企業グループ「マックス・インド・グループ」傘下の生命保険会社「マックス・ニューヨーク生命」の発行済株式26%を取得することに合意し、インド保険監督当局による認可取得等の手続きを経て、6月に総額273億ルピー(約391億円)の出資を完了しました(同社は「マックス生命」に名称を変更しました)。

これにより、三井住友海上は、経済成長著しいインドにおいて、損害保険事業に加え生命保険事業でも市場参入を果たしました。

なお、本件は当社グループにとって、タイ(2004年)、中国(2010年)、マレーシア(2010年)、インドネシア(2011年)に次ぐ、アジアで5か国目の生命保険市場への参入です。今後も、アジア地域での強みを活かし、生保・損保ともに、いっそう事業基盤を強化してまいります。



調印式の様子(2012年4月12日)

この資料では、社名表示に次の略称を使用している箇所があります。

MS&ADホールディングス	(=MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス株式会社)	三井住友海上きらめき生命	(=三井住友海上きらめき生命保険株式会社)
三井住友海上	(=三井住友海上火災保険株式会社)	あいおい生命	(=あいおい生命保険株式会社)
あいおいニッセイ同和損保	(=あいおいニッセイ同和損害保険株式会社)	三井住友海上あいおい生命	(=三井住友海上あいおい生命保険株式会社)
三井ダイレクト損保	(=三井ダイレクト損害保険株式会社)	三井住友海上プライマリー生命	(=三井住友海上プライマリー生命保険株式会社)

当社の株主還元方針について

グループの中期経営計画「MS&ADニューフロンティア2013」では、統合効果の発揮と成長戦略の推進による収益の拡大を株主還元の増大へとつなげることを謳っています。

具体的な株主還元としては、配当と自己株式の取得を通じ、中期的に「グループコア利益」の50%を目処として利益還元を行ってまいります。また、成長領域への積極的な事業投資を継続することにより持続的な成長サイクルを実現し、利益の拡大を通じて株主還元の増大を目指します。

グループコア利益

「グループコア利益」は、MS&ADインシュアランス グループ独自の利益指標で、以下の方法により算出します。

「グループコア利益」

- ＝ 連結当期利益
- － 株式キャピタル損益(売却損益等)
- － クレジットデリバティブ評価損益
- － その他特殊要因
- ＋ 非連結グループ会社持分利益

■新サービス「スマ保」の提供を開始

三井住友海上は、2012年8月からスマートフォンを利用した新サービス「スマ保」の提供を開始しました。「スマ保」は、「保険をてのひらに。」をコンセプトとして、自動車保険の「ご契約管理」「緊急時ナビゲート」「運転力診断」「安全運転チェッカー」の4つのサービスを提供する同社独自のアプリです。

ダウンロードは無料で誰でも行うことができ、安全運転・事故防止のサポートとして、ドライバーの運転傾向を分析・診断するサービスのほか、事故等の衝撃を検知し、前後の映像を自動的に録画する機能を搭載しています。「スマ保」アプリは、iPhone向け無料アプリのダウンロードサイト(App Store)のファイナンス部門ランキングで1位^(注1)を記録するなど大変好評をいただいております。累計のダウンロード件数は17万件^(注2)を超えました。

今後も本サービスメニューを充実させ、さらなるお客さま向けサービスの拡充・利便性の向上に努めてまいります。



「スマ保」トップ画面

(注1)2012年8月22日付
(注2)「スマ保」「スマ保「運転力」診断」アプリの合計(2012年11月13日時点)



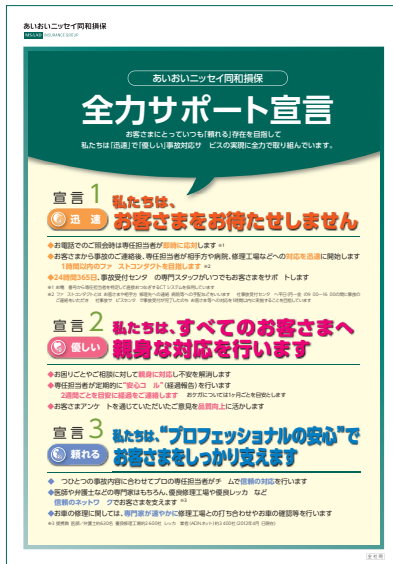
■事故対応サービス「全力サポート宣言」の取り組みを推進

あいおいニッセイ同和損保は、2012年4月から事故対応サービス「全力サポート宣言」を掲げ、『迅速』『優しい』『頼れる』をキーワードに、事故にあわれたお客さまにより一層の安心と満足をお届けできるよう、全社を挙げて取り組んでおります。

現在、本取り組みについてよりご理解いただけるよう、同社公式ホームページ^(*)において「全力サポート宣言」をご説明した動画を公開しています。また、「全力サポート宣言」で宣言している“1時間以内のファーストコンタクト開始”や“専任担当者からの定期的な安心コール(経過報告)”についての実施率も公式ホームページ上で公開しています。

本取り組みの推進によって、これらの実施率のみならず、サービス品質の向上にも努めており、事故対応全般に関するお客さま満足度の向上にも繋がっています。

これからも、お客さまからの信頼を得て選ばれる保険会社を目指してまいります。



「全力サポート宣言」ポスター

(*)あいおいニッセイ同和損保 公式ホームページ
パソコン <http://www.aioinissaydowa.co.jp/>
スマートフォン <http://mb.aioinissaydowa.co.jp/sp/>

CSRトピック

■グループ全体でCSR取り組みを推進

MS&ADインシュアランスグループでは、「グローバルな保険・金融サービス事業を通じて、安心と安全を提供し、活力ある社会の発展と地球の健やかな未来を支える」という経営理念のもと、2012年度よりグループのCSR取り組みの考え方を整理するとともに、MS&ADインシュアランスグループの中期重点課題を明確にしました。加えて、取り組み状況を可視化するため、CSRに関するKPI(主要業績評価指標)を導入しました。

中期重点課題(取り組みの柱)

- 取り組みの柱I 商品・サービスの品質向上を通じ、信頼を獲得します。
- 取り組みの柱II 持続可能な環境・社会づくりに貢献します。
- 取り組みの柱III グループ全社員が行動指針(バリュー)を実践します。

グループ各社でステークホルダーの声を聞き、リスク・災害に備えた保険の普及、社会が抱える課題の解決に向けた商品・サービスの開発などに取り組むほか、ラムサール条約登録湿地を中心とした水辺の生物多様性保全活動「MS&ADラムサールサポーターズ」、インドネシアでの熱帯林再生プロジェクト、「MS&ADゆにぞんスマイルクラブ」をはじめとする様々な社会貢献活動を進めています。

取り組みの詳細は「CSRレポート2012」で報告しています。当社公式ホームページを是非ご覧ください。

(URL:www.ms-ad-hd.com/csr/index.html)



MS&ADゆにぞんスマイルクラブ「世界の子どもたちへ編み物作品を贈ろうプロジェクト」



「MS&ADラムサールサポーターズ」の活動

東日本大震災に対する取り組み

■田んぼの復興支援活動

MS&ADインシュアランスグループでは、東北復興支援の一環として、2011年度に宮城県南三陸町で田んぼを復元する活動を行いました。2012年度もボランティアを募集し、再生後の田んぼにおいて、6月にはグループ社員と家族69名が田植えを行い、10月には77名が稲刈り作業に参加しました。今後も東北復興支援につながる活動に取り組んでまいります。



稲刈り作業の様子

■地震保険の普及の推進

地震保険の普及推進にはこれまでも取り組んでまいりましたが、東日本大震災以降、消費者の地震災害に対する補償ニーズの高まりを受け、2011年度の地震保険付帯率(全国平均)が50%を超えました。今後もMS&ADインシュアランスグループでは、地震保険の必要性や商品内容をお客さまにご理解いただき、いざというときの備えとして地震保険にご加入いただけるよう、更なる普及に努めてまいります。

連結業績について

損害保険事業における正味収入保険料^(注1)は、1兆3,404億円と、前年同期に比べ2.7%の増収となりました。また生命保険事業では三井住友海上プライマリー生命が新商品の好調な販売により大幅に増収したことに加え、三井住友海上あいおい生命も新契約が堅調に伸び、生命保険料は前年同期に比べ64.4%増収の3,378億円となりました。

経常利益は、前期に発生したタイの洪水による保険金の支払に伴う異常危険準備金の取崩額の増加や自動車保険の損害率に改善傾向がみられたものの、市場環境の悪化に伴い有価証券評価損1,244億円を計上したことなどにより、前年同期に比べ25億円減少し、66億円となりました。

経常利益に特別損益、法人税及び住民税などを加減した中間純損益は、前年同期に比べ165億円減益の94億円の損失となりました。

国内損害保険子会社の業績について

(三井住友海上 単体)

正味収入保険料^(注1)は、昨年10月の料率改定の効果などにより自動車保険が増収したことに加え、他の種目でも増収し、前年同期に比べて3.7%増加の、6,674億円となりました。

経常利益は、有価証券評価損の影響を大きく受けたものの、正味収入保険料の増加やタイ洪水による保険金の支払に伴う異常危険準備金の取崩しなどにより、前年同期に比べ43億円増加し、126億円となりました。中間純利益は前年同期に比べ48億円増加し、102億円となりました。

(あいおいニッセイ同和損保 単体)

正味収入保険料は、昨年10月の料率改定の効果などにより自動車保険が増収したことに加え、自賠責保険の増収などにより、前年同期に比べ2.4%増加の5,560億円となりました。

経常利益は、国内自然災害による発生保険金の増加や有価証券評価損の影響によって、前年同期に比べ251億円減少し、70億円の損失となりました。中間純損益は、前年同期に比べ305億円減益の157億円の損失となりました。

(三井ダイレクト損保 単体)

正味収入保険料は174億円と、前年同期に比べて3.3%の増収となり、中間純利益は6億円(当社出資持分)となりました。

国内生命保険子会社の業績について

(三井住友海上あいおい生命 単体)

新契約件数(個人保険・個人年金保険)は前年同期に比べ16.3%減少し、16.1万件となりました。保有契約高(個人保険・個人年金保険)は前年度末に比べ5.4%増加し、19兆385億円となりました。

中間純利益は、前期の合併関連費用(特別損失)がなくなったことなどから、29億円増益の3百万円となりました。

(三井住友海上プライマリー生命 単体)

収入保険料は新商品の販売が好調だったことにより、前年同期に比べ1,117億円と大幅に増加し、2,263億円となりました。

中間純利益は前年同期に比べ45億円増加の89億円と大幅な増益となりました。

海外保険子会社の業績について

正味収入保険料は、欧州地域及びアジア地域で増収したものの、円高による為替の影響によって、前年同期に比べ23億円減少し、993億円となりました。

再保険子会社において、自然災害の影響が大きかった前年同期に比べ、保険引受損益が改善したことや、アジアにおいて出資した生命保険会社が利益寄与したことなどにより、中間純利益は、前年同期に比べ29億円増加し、105億円となりました。

(注1) 「業績ダイジェスト」では、三井住友海上の独自商品である自動車保険「もどリッチ(満期精算型払戻金特約付契約)」の払戻充当保険料を控除したベースで記載しています。

(注2) 三井住友海上あいおい生命の業績については、三井住友海上きらめき生命における前期業績とあいおい生命における前期業績の単純合算値との比較を記載しています。

2012年度中間期 連結決算の概要(MS&ADホールディングス 主要項目)

(億円)

	2011年度中間期		2012年度中間期	
			比較増減	増減率(%)
正味収入保険料	13,052	13,404	352	2.7
経常利益	92	66	-25	-27.3
中間純利益又は中間純損失(-)	71	-94	-165	-232.2
総資産	139,410	143,807	4,397	3.2
純資産	15,052	13,677	-1,375	-9.1

種目別保険料・保険金(グループ合計)

種目別正味収入保険料

(億円)

	2011年度中間期		2012年度中間期	
		増減率(%)		増減率(%)
火災	1,789	-1.6	1,753	-2.0
海上	470	0.6	447	-4.9
傷害	1,141	3.4	1,171	2.6
自動車	6,525	0.9	6,721	3.0
自賠責	1,413	0.1	1,570	11.1
その他	1,711	-1.3	1,739	1.6
合計	13,052	0.4	13,404	2.7

種目別正味支払保険金

(億円)

	2011年度中間期		2012年度中間期	
		増減率(%)		増減率(%)
火災	2,354	239.4	1,672	-29.0
海上	230	11.1	205	-10.9
傷害	564	-0.6	568	0.8
自動車	4,121	-0.4	4,086	-0.9
自賠責	1,307	-0.3	1,336	2.2
その他	939	2.3	869	-7.5
合計	9,518	21.4	8,738	-8.2

(注) 保険料については、三井住友海上の独自商品である自動車保険「もどリッチ(満期精算型払戻金特約付契約)」の払戻充当保険料を控除したベースで記載しています。

国内損害保険子会社における主要数値および指標の状況

(億円)

	三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ 同和損保(単体)		三井ダイレクト損保(単体)	
	2011年度中間期	2012年度中間期	2011年度中間期	2012年度中間期	2011年度中間期	2012年度中間期
正味収入保険料	6,436	6,674	5,431	5,560	168	174
(対前期増減率)	3.2%	3.7%	-2.7%	2.4%	3.9%	3.3%
正味損害率	78.6%	72.4%	81.4%	70.3%	74.1%	78.0%
正味事業費率	32.6%	31.8%	35.1%	33.6%	21.9%	20.5%
コンバインド・レシオ	111.2%	104.2%	116.5%	103.9%	96.0%	98.5%
保険引受利益又は保険引受損失(-)	-202	463	199	173	3	7
資産運用損益	302	-291	-5	-235	0	0
経常利益又は経常損失(-)	82	126	181	-70	4	8
中間純利益又は中間純損失(-)	53	102	148	-157	4	8
純資産額	9,144	8,200	4,608	3,583	105	114
単体ソルベンシー・マージン比率	522.1%	480.1%	502.7%	504.8%	424.0%	436.5%

(注) 1. 三井住友海上の正味収入保険料、正味損害率、正味事業費率およびコンバインド・レシオは、同社独自商品の自動車保険「もどリッチ(満期精算型払戻金特約付契約)」の払戻充当保険料を控除したベースで記載しています。
 2. 正味損害率=(正味支払保険金+損害調査費)÷正味収入保険料×100
 3. 正味事業費率=(諸手数料及び集金費+保険引受に係る営業費及び一般管理費)÷正味収入保険料×100
 4. コンバインド・レシオ=正味損害率+正味事業費率

国内生命保険子会社における主要数値および指標の状況

(億円)

	三井住友海上 あいおい生命(単体)		三井住友海上 プライマリー生命(単体)	
	2011年度中間期	2012年度中間期	2011年度中間期	2012年度中間期
新契約件数	193,378件	161,878件	21,312件	41,450件
保有契約高	172,463	190,385	28,447	31,030
保有契約年換算保険料	2,884	3,046	4,226	4,431
基礎利益	28	30	139	126
中間純利益又は中間純損失(-)	-29	0	44	89
純資産額	901	1,107	589	697
単体ソルベンシー・マージン比率	(※)	1,235.8%	693.8%	711.0%

(注) 1. 新契約件数、保有契約高、保有契約年換算保険料は、個人保険と個人年金保険の合計を記載しています。
 2. 年換算保険料は、1回あたりの保険料について保険料の支払方法に応じた係数を乗じ、1年あたりの保険料に換算した金額を示しています。
 3. 基礎利益は、保険本業の収益を示す指標の一つで、「経常利益」から「キャピタル損益」と「臨時損益」を控除したものです。
 4. 三井住友海上あいおい生命は、三井住友海上きらめき生命とあいおい生命との合併会社(合併日:2011年10月1日)であり、同社の前期業績には、両社の業績の単純合算値を記載しています。
 ※2011年度中間期の単体ソルベンシー・マージン比率(※)は、三井住友海上きらめき生命1,278.0%、あいおい生命1,428.9%です。

海外保険子会社の状況

(億円)

	2011年度中間期		2012年度中間期	
			比較増減	増減率(%)
正味収入保険料	1,017	993	-23	-2.3
アジア	469	470	0	0.2
欧州	267	271	3	1.5
米州	153	140	-13	-8.7
再保険	127	111	-15	-12.0
中間純利益	75	105	29	39.6
アジア	48	57	8	17.9
欧州	17	12	-4	-27.2
米州	7	7	-0	-0.0
再保険	1	27	25	1,546.5

○単体ソルベンシー・マージン比率は、行政当局が保険会社を監督する際に活用する客観的な指標の一つであり、その数値が200%以上であれば「保険金等の支払能力の

充実の状況が適当である」とされています。

会社概要 / 役員 / 株式の状況

■会社概要 (2012年9月30日現在)

社名 MS&ADインシュアランス グループ
ホールディングス株式会社
本店所在地 東京都中央区八重洲一丁目3番7号
設立 平成20年(2008年)4月1日
資本金 1,000億円
従業員数 36,858名(連結)

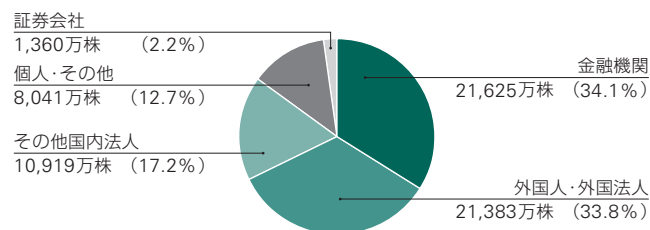
■役員 (2012年9月30日現在)

取締役社長(代表取締役)	社長執行役員	江頭 敏明
取締役(代表取締役)	執行役員	柄澤 康喜
取締役(代表取締役)	執行役員	鈴木 久仁
取締役(代表取締役)	執行役員	米田 正典
取締役	専務執行役員	藤本 進
取締役	専務執行役員	堀本 修平
	専務執行役員	梅村 孝義
	執行役員	岸本 保夫
	執行役員	藤井 史朗
取締役	執行役員	土屋 光弘
取締役	執行役員	飯島 一郎
	執行役員	西方 正明
	執行役員	吉野 二良
	執行役員	金杉 恭三
取締役	執行役員	柳川 南平
社外取締役		渡邊 顯
社外取締役		角田 大憲
社外取締役		小川 是
社外取締役		松永 真理
監査役(常勤)		池田 克朗
監査役(常勤)		中村 仁義
社外監査役		安田 莊助
社外監査役		野村 晋右
社外監査役		手塚 裕之

■株式の状況 (2012年9月30日現在)

発行済株式の総数 633,291,754株
株主数 75,348名

所有者別分布状況



大株主状況(上位10名)

株主名	保有株式数(万株)	持株比率(%)
トヨタ自動車株式会社	5,261	8.3
日本生命保険相互会社	3,632	5.7
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,318	5.2
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,308	5.2
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY	2,347	3.7
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT - TREATY CLIENTS	1,174	1.9
THE CHASE MANHATTAN BANK, N.A. LONDON SECS LENDING OMNIBUS ACCOUNT	1,135	1.8
MELLON BANK, N.A. AS AGENT FOR ITS CLIENT MELLON OMNIBUS US PENSION	919	1.5
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505225	896	1.4
NATSCUMCO	809	1.3

※当社は自己株式1,139万株を保有していますが、上記大株主から除いています。

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎事業年度終了後3か月以内に開催します。
配当の基準日 期末配当金 毎年3月31日
中間配当金 毎年9月30日

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵送物送付先) 〒183-8701

東京都府中市日鋼町1番10
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) ☎ 0120-176-417

<※2013年1月より郵送物送付先・電話照会先が変更となります。>

〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
☎ 0120-782-031

特別口座の 三井住友信託銀行株式会社および
口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

公告方法 電子公告の方法により、下記ホームページに
掲載します。ただし、事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載
します。
<http://www.ms-ad-hd.com/company/notification/index.html>

お問い合わせ先

三井住友信託銀行株式会社
〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
☎ 0120-176-417
※2013年1月より上記のとおり変更となります。

三菱UFJ信託銀行株式会社
〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
☎ 0120-232-711

株式に関するお手続きについて

- お受け取りがお済みでない配当金を受け取るお手続き
三井住友信託銀行までお申し出ください。
なお、配当金は、支払開始の日から満3年を経過しますと、
当社定款の規定によりお支払いできなくなりますので、
お早めにお受け取りください。
- その他のお手続き
 - 証券会社に口座をお持ちの場合
お取り引きの証券会社へお申し出ください。
 - 証券会社に口座をお持ちでない場合
特別口座での管理となっておりますので、三井住友信託
銀行または三菱UFJ信託銀行へお申し出ください。
(お手続きの例)
○ご住所の変更
○今後の配当金受取口座のご指定
配当金領収証でのお受け取りのほか、口座等への振込のご
指定もできます。
○単元未満株式の買取・買増のご請求
証券取引所で売買できない、100株未満の株式(単元未満
株式)につきましては、買取・買増のご請求により整理する
ことができます。
●買取請求(当社に株式の買取をご請求いただく方法)
(例)株主さまのご所有の150株のうち、当社が50株を
買い取ります。
→株主さまのご所有の株式は100株となります。
●買増請求(当社から株式を買い増して100株単位としてい
ただく方法)
(例)株主さまのご所有の150株に加え、当社から50株を
買い増します。
→株主さまのご所有の株式は200株となります。
 - 特別口座からの振替手続き
特別口座の株式につきましては、単元未満株式の買取・買増
のご請求のほかは売買ができませんので、証券会社に開設
された口座への振替をお勧めします。

立ちどまらない保険。

MS&AD インシュアランスグループ ホールディングス株式会社

MS&AD INSURANCE GROUP

